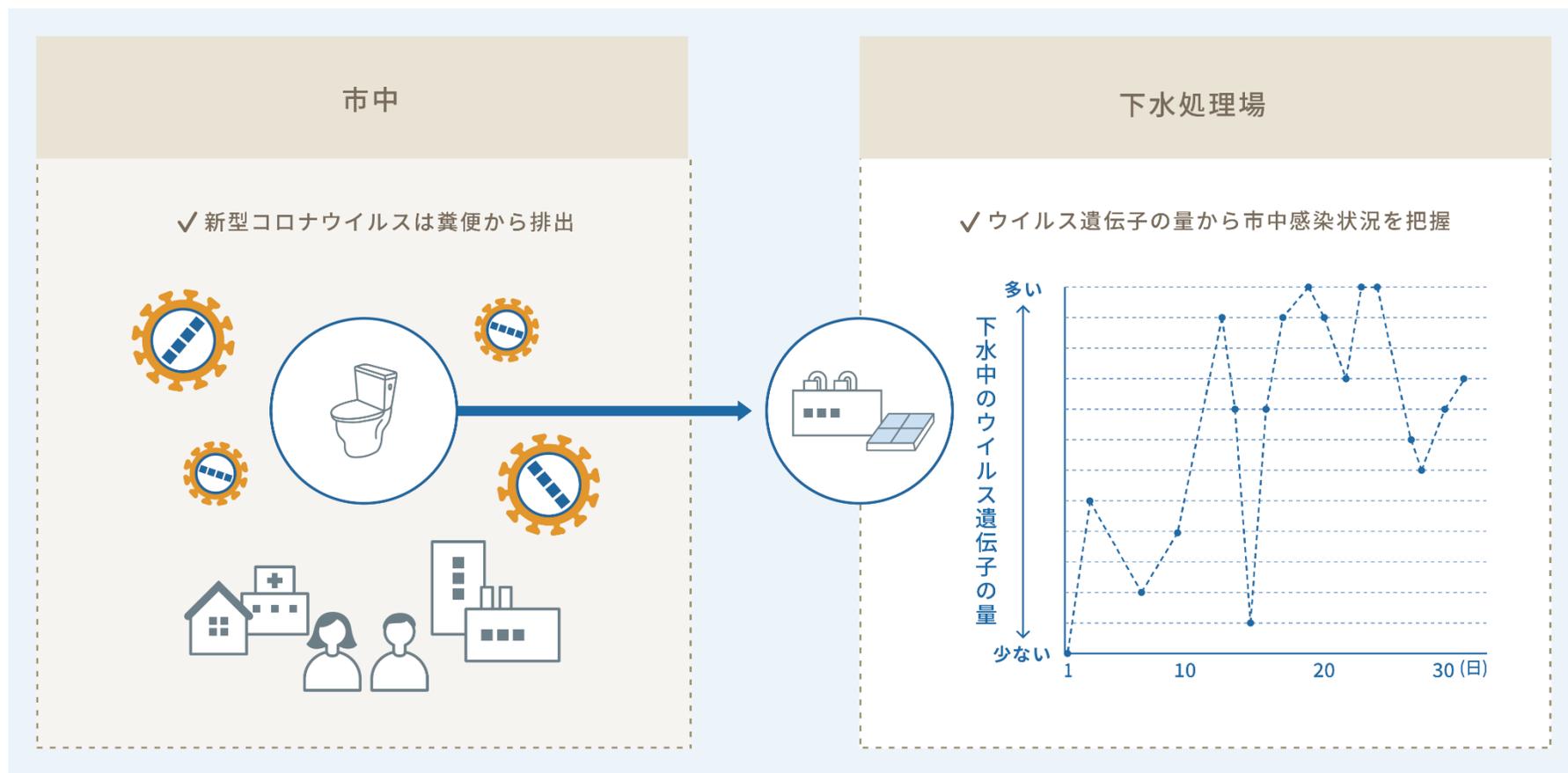


報道発表資料

はじめに 下水サーベイランスとは

- ✓ 下水中の新型コロナウイルス遺伝子をPCRで測定することで、対象地域の感染状況を把握できます。
- ✓ 感染の早期検知と、感染が本当に収束したのかの判断への活用が期待されます。
- ✓ また、高齢者施設などでのクラスター発生防止への活用も進んでいます。



1. 実証事業の概要

「下水サーベイランスの活用に関する実証事業」について、お知らせします。
本事業は、内閣官房「ウィズコロナ時代の実現に向けた主要技術の実証・導入に向けた調査研究業務」の一環として実施されます。高知大学は高知県・高知市とともに本事業に参加します。

下水サーベイランス(下水中のウイルスを検査・監視すること)を地域の新型コロナウイルス感染症の対策に役立てるための実証事業です。2022年6月末に全国で20の自治体が採択され、事業がスタートしました

(https://www.mri.co.jp/news/public_offering/20220427.html#04)。高知県・高知市はその中の一つに選ばれています。

高知県と高知市、および高知大学の井原賢准教授は2022年1月に下水疫学に関する「高知下水道シンポジウム」を開催し、下水サーベイランスの感染症対策への有用性を発信してきました。本事業では高知県および高知市の下水処理場における下水サーベイランスを通じてその結果の活用方法を検討していきます。

2. 実証名

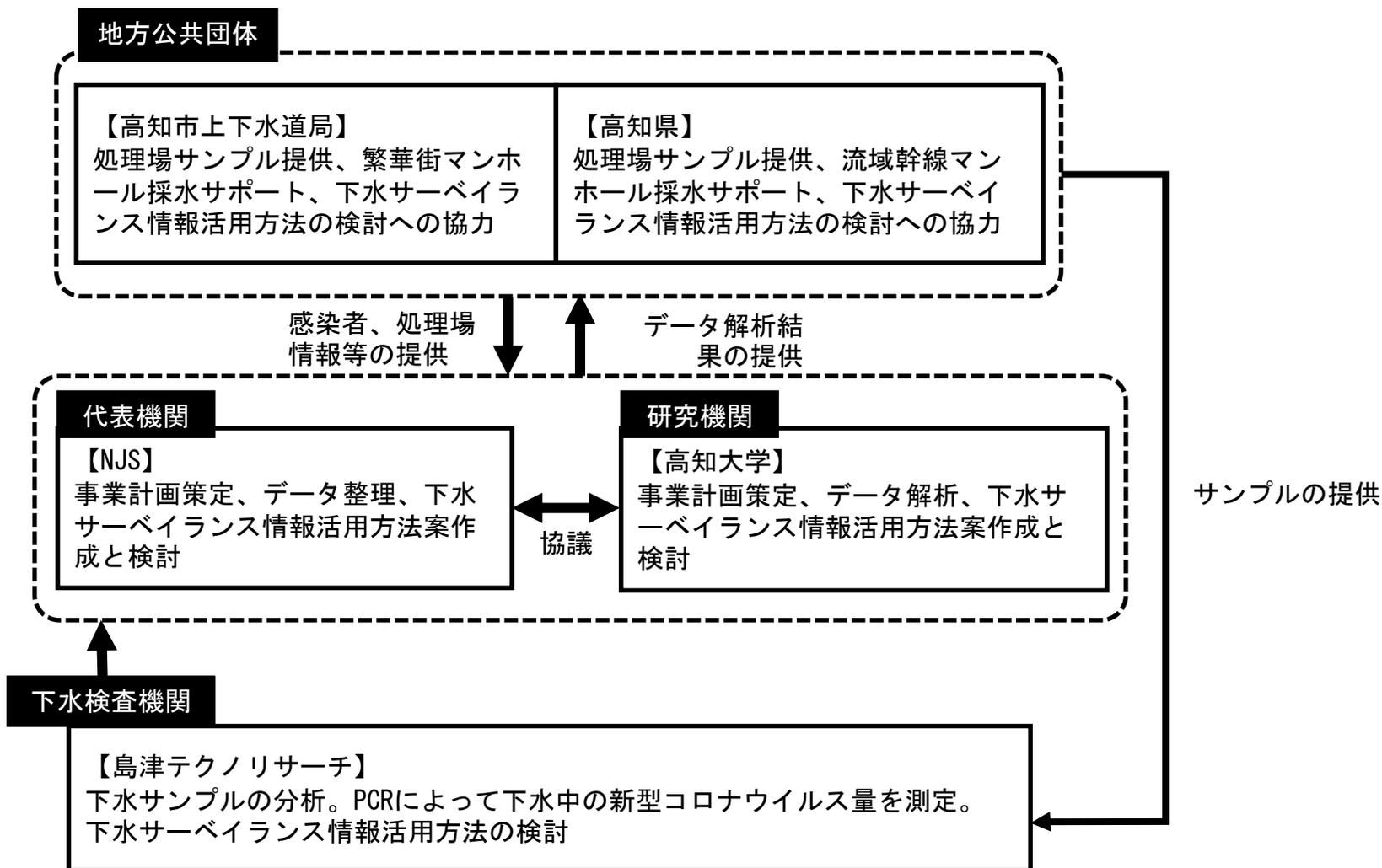
高知県高知市における下水サーベイランスによる新型コロナウイルス感染症状況の把握に関する実証

3. 実証期間

2022年7月～2023年1月

4. 事業実施体制および役割

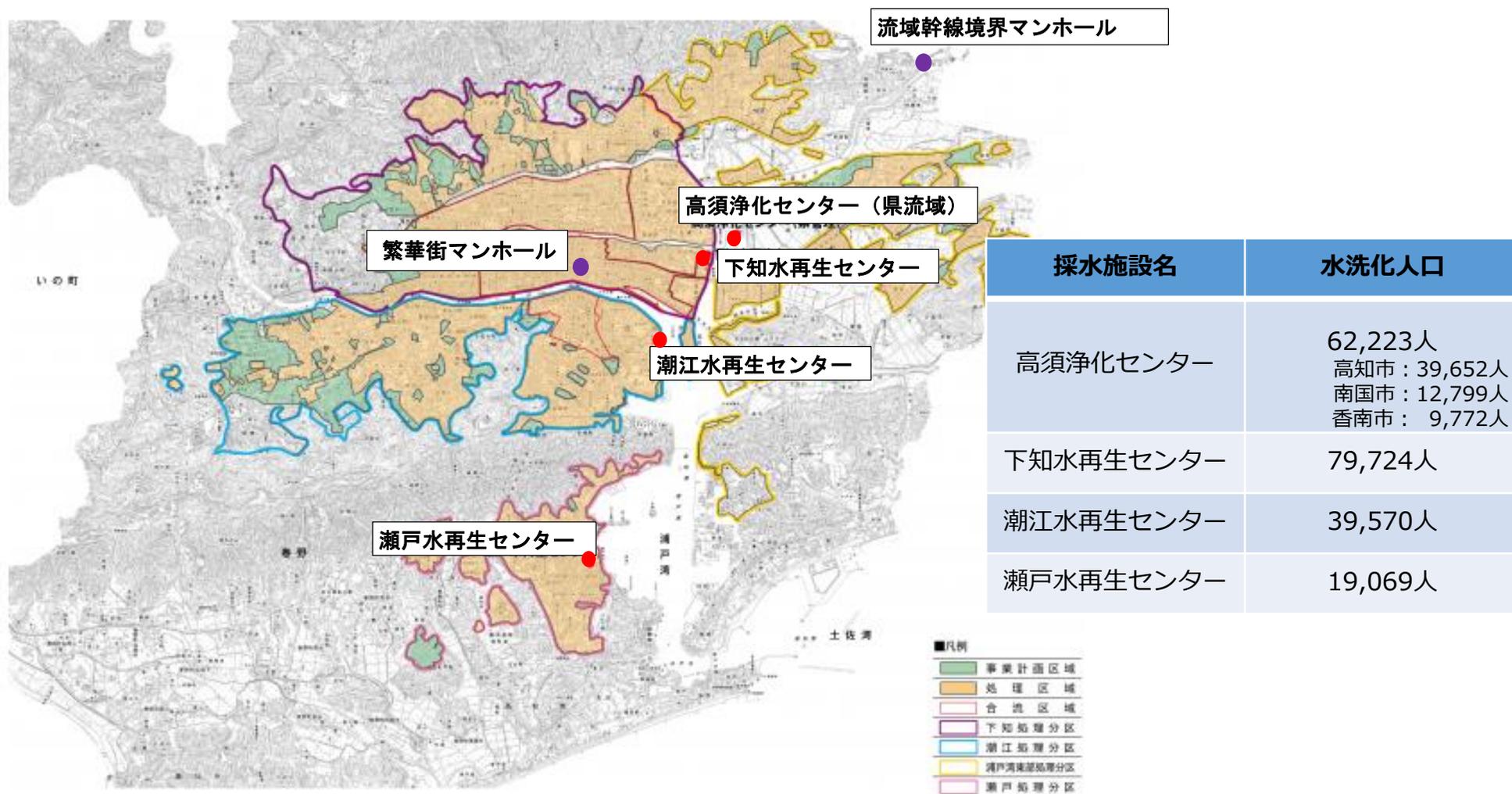
高知県、高知市、株式会社NJS、高知大学、株式会社島津テクノロジーの共同体



5. 実証フィールド

- 高知県 高須浄化センター、流域幹線境界マンホール（南国市、香美市との境界点）
- 高知市 下知水再生センター、潮江水再生センター、瀬戸水再生センター、繁華街マンホール

高知市公共下水道現況図（令和2年3月31日現在）



(1) 下水サーベイランスの位置づけ

高知県では、病床占有率、直近7日間の新規感染者数、感染経路不明割合、PCR陽性率等を判断指標として、感染状況を5段階のステージ(特別対策、特別警戒、警戒、注意、感染観察)に区分し、対応策を定めています。

今回の実証事業において、下水中の新型コロナウイルス量と感染状況に相関性があることを確認できた場合は、下水処理場での観測により、市中の感染状況を効率的に把握することが可能になると考えています。

(2) 下水サーベイランスの課題

- ①下水中新型コロナウイルス量を迅速に検査する体制が整っていない。
- ②現在用いている判断指標と下水中の新型コロナウイルス量の相関性が確認できていない。
- ③下水サーベイランスデータの効果的な活用方法が確立されていない。

(3) 実証テーマ

上記の課題を解決するために、本事業では以下の実証テーマに取り組みます。

① 下水サーベイランスの結果を迅速に出すための体制構築

⇒民間検査機関を活用し、採水から2～3日後までに分析結果がでる体制を構築します。

② 下水サーベイランスの活用方策の検討

⇒下水中の新型コロナウイルス量と高知県の感染状況把握の判断指標との相関性を確認します。
有識者や関係部局に参加いただき、下水情報を対応目安の判断指標として活用する上での課題や改善点等について検証する意見交換会を開催します。

③ 繁華街のマンホール調査による安全性の確認

⇒繁華街のマンホールより採水した下水中の新型コロナウイルス量を測定し、夜間外出自粛等の行動制限の必要性などを判断するための指標として活用できるか検証します。